

澁谷 鎮明*

Shizuaki SHIBUYA*



現代韓国における風水地理思想に関する学術的評価

——地理学分野の業績を中心として——

Academic Evaluation of Feng Shui Thought in Korea:

Focus on Geographical Research

I はじめに

本研究は、地理学分野の業績を中心としながら、韓国においていかに風水地理思想の学術的研究がなされてきたかについて、既往の研究を整理検討し、その研究動向を概説し、問題点や課題を明らかにしたい。またこの作業を通じて、以前は「迷信」とされた風水地理思想が、どのように学术界に受け入れられ、研究対象となり、現在までどのような関心がもたれてきたのかについても考察したい。

1990年代には、東アジア各地域において一種の「風水研究ブーム」が起きたものと理解される。この時期に韓国、台湾、中国など風水地理思想を用いてきた「風水文化圏」にある地域では、風水を学術的にとらえなおそうとする「風水の再発見」が行われた。当時の日本でも、「風水」は一時的に学術上のキーワードとなった感があった。しかしながら管見の限り、現在までコンスタントに風水地理思想に関する研究が行われてきているのは、ほぼ韓国だけであると思われる。本稿では、その要因についても探究したい。

なお本稿の内容や文献リストは、2015年大韓地理学会大会において、「韓国風水研究の回顧と東アジア的展望」をテーマとした特別セッションの内容を多く参考としている。このセッションでは、地理学、歴史学、建築学、不動産・

都市分野、在野研究、および中国・日本における研究動向が報告された。

筆者に上述のような関心があるため、本稿では一つ一つの業績を詳細に検討するというよりは、全体的な研究動向について把握するように努めたい。またここで扱う学術的研究成果は、おおよそ1980年前後から2015年までの研究を扱うこととする。

風水地理思想は、上述のように中国起源であり、中国由来の気や脈の思想、周易、陰陽五行説などを基盤として、地形や空間の吉凶判断をし、適切な場所・方位を選ぶ術法である。そこで選択された良い場所や方位に配慮しながら建築物や墓の造営、あるいは建築物内外の調整を行うことで、財物を得、家が繁栄するなどの実利が得られると考えられてきた。

この際に地形の判断をする流派を「形勢派」等と呼び、方位判断をするものを「原理派」等と呼ぶ。またその選定対象によって墓の位置等を選ぶ「陰宅（風水）」、建築物等を扱う「陽宅（風水）」、都城などの集住地を扱う「陽基（風水）」に区分される。いわば「2つの流派」から構成され、扱うべき「3つの対象」があると言えるだろう。

韓国においてはこのうち、「形勢派」が強く、陰宅風水、陽宅・陽基風水の三者が存在したもの、最終的には陰宅が強くなり、風水と言えど墓、というようなイメージも存在する。また

*中部大学国際関係学部国際学科

韓国では、いわば地相術であったはずの風水地理思想の自然認識方法や用語・概念が、朝鮮王朝期の国都選定に関係するとともに、地誌や古地図にも用いられ、地理学者が関心を持つ原因となってきた。これに対し日本では「原理派」の一端が見られるものの、「形勢派」がほとんど見られず、その対象も江戸時代に流行した「家相」のような、方位判断をする陽宅風水が盛んであった。

ここで本稿の内容と深くかかわる、上述の「形勢派」の論理について今少し触れておきたい。「形勢派」は、山々の連なりである「龍脈（地脈）」を通じて、地中から湧き出す適切な「気」を得られる地「穴」「明堂」を選び、建築物や墓、あるいは都城内の重要な施設を造営するべきとの考えに立っており、ある種の立地論とも言える。韓国・朝鮮は、おそらくこの「形勢派」の影響の最も強い地域と考えられる。

II 韓国における風水地理思想に対する学術的評価のはじまり

韓国において、このような風水地理思想に関心をもってきたのは、地理学ばかりではなく、歴史学をはじめとして、建築学、人類学、造景（造園）学、国文学等、非常に多数の分野から研究されてきた。図1は、筆者が漢陽大学校建築学科編『風水書誌目録集』（2014）を基に作成した韓国における風水関連のテーマを扱った学位論文数の推移である。これを見ると論文の数は増加傾向であり、特に2000以降に増加が顕著である。2006～2010年には通算150件の学位論文が提出されている。また博士論文の割合も徐々に増加している。

韓国の風水地理思想に関する、初期の学術研究としては、戦前期の村山智順『朝鮮の風水』、李丙燾『高麗時代の研究』および一連の研究が著名である。前者は、戦前期に朝鮮総督府嘱託

の村山が、風水書などの朝鮮の漢籍の読解を中心としながら当時までに形成された風水の理論と朝鮮の国土への応用をまとめたものである。当時朝鮮を支配していた側の文献でもあり、評価は多様である。1990年代に韓国語への翻訳も行われている。後者は、風水地理思想そのものがテーマではないが、高麗時代の遷都や反乱などの政治史に図讖思想や風水思想を絡めながら論じたものである。これらを除くならば、韓国における風水地理思想に関する学術的研究は、1980年前後から始められた。

その中で地理学分野の果たした役割は大きかったと考えられる。特に1978年頃より風水の学術的研究を始めた地理学者、崔昌祚は、1984年に『韓国の風水思想』を著した。主たる内容は、韓国風水の理論について概観・整理しつつ、朝鮮王朝初期の国都立地選定、地方の行政拠点である「邑治」、当時の預言書である図讖書にあらわれる避乱・保身の地である「十勝之地」などと風水地理思想の関わりを論じている。この研究は、韓国において風水地理思想そのものをテーマとして、早い時期に記された学術書と言え、先駆的な業績として、多方面から引用された。

表1は、崔元碩（2015）による1980年前後から2015年に至る、韓国の地理学界における風水関連研究文献リストを翻訳したものである。また図2は、1978年以降の地理学者による風水地理思想関連の論文数の推移である。これらの資料を見ると、韓国の一部の地理学者は、かなり早い時期より風水地理思想に関心を持ってコンスタントに学術研究を積み重ねてきたことが理解される。

1980年代には、地理学以外でも研究がはじめられた、特に建築学の朴時翼による博士論文「風水地理説の発生背景に関する分析研究」（1987）や、実測調査をともなう各地の「伝統集落」研究（図3）、あるいは国文学分野にお

図1 韓国における風水関連学位論文数

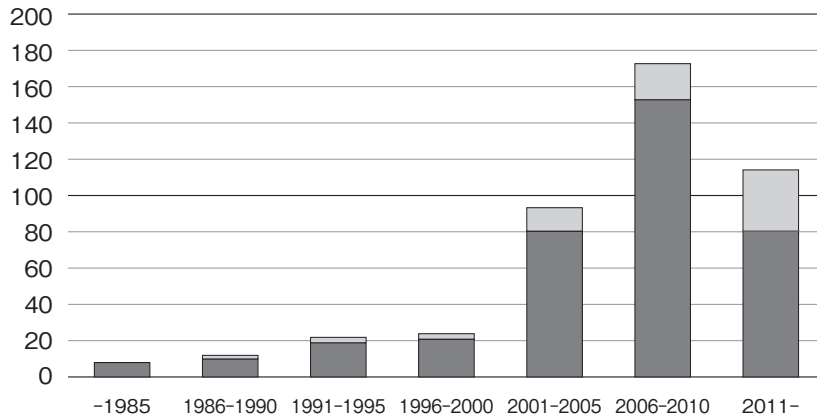


図2 韓国内学術雑誌掲載の地理学者による風水関連論文数 (1978-2015)

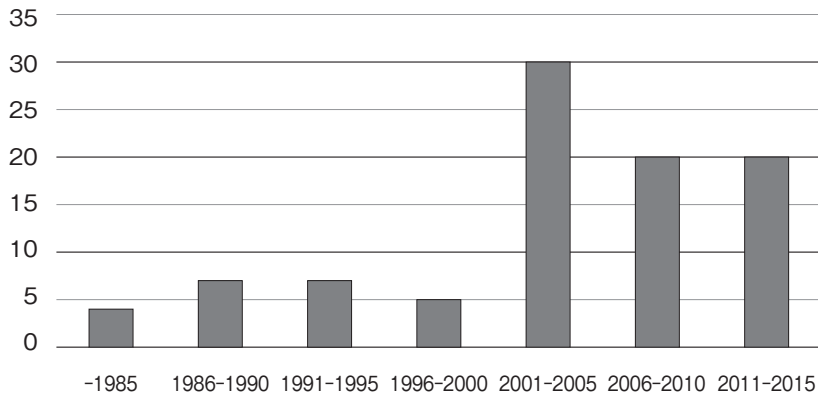


表1 韓国の地理学分野における風水関連の学術論文 (学術雑誌掲載論文・崔元碩、2015を筆者翻訳)

表題	筆者	年度	発表誌
風水に対する地理学的解釈－陽気風水を中心に－	崔昌祚	1978	大韓地理学会誌13 (1)
陰宅風水に対する地理学的解釈	崔昌祚	1978	地理学論叢5
図讖書類上の土地観に対する地理学的解釈	崔昌祚	1980	地理学論叢7
風水説の坐向論上の吉凶判断に関する緯学的解釈	崔昌祚	1982	大韓地理学会誌17 (2)
月岳山弥勒寺明堂の風水解釈	崔昌祚	1986	都市と環境研究1
P'ungsu, the Korean Tradutional Geographic Thoughts	崔昌祚	1987	道教文化研究
韓国風水思想の現代地理学的意義と課題	李夢日	1988	地理学研究9
韓国風水思想に対する理解と争点	洪淳完・李夢日	1989	論文集47
韓国風水地理思想の研究動向と課題	李ビョンゴン・李夢日	1989	ファンテピョンヤン研究2
風水思想で見る統一韓半島の首都立地研究	崔昌祚	1989	国土研究11
朝鮮後期実学者たちの風水思想	崔昌祚	1990	韓国文化11
韓国風水思想の歴史と地理学	崔昌祚	1991	精神文化研究14 (1)
集落立地に対する風水的水的解釈：九万里村の風水的水的解釈を媒介に	権善政	1991	地理学論叢18

風水の立場から見た韓民族の山観念	崔元碩	1992	地理学論叢 19
風水の地気論に対する文献考証学的研究	成東煥	1992	地理学論叢 19
道読風水の本質に関する何点かの論究	崔元碩	1994	応用地理 17
風水地理説の本質と起源とその自然観	尹弘基	1994	韓国史市民講座 14
風水地理の起源と韓半島への導入時期をいかに見るか？	尹弘基	1995	韓国学報 21 (2)
韓国風水思想の国土観と環境策略	李夢日	1996	釜山地理 4-5
奉安寺立地の風水的解釈	成東煥	1997	釜山地理 6 (1)
風水思想の環境地理学的考察	オ・セチャン	1998	社会科学研究 4 (2)
九山禪門寺刹の立地研究：風水的側面を中心に	チョソンホ・成東煥	1998	社会科学研究 5
羅末麗初の裨補寺塔の研究	崔元碩	1998	クサン論集 2
なぜ風水は重要な研究主題なのか？	尹弘基	2001	大韓地理学会誌 36 (4)
景福宮と旧朝鮮総督府の建物景観を取り巻く象徴物戦争	尹弘基	2001	空間と社会 15
韓国風水地理研究の回顧と展望	尹弘基	2001	韓国思想史学 17
韓国の風水地理説と仏教信仰との関係	尹弘基	2001	歴史民俗学 13 (1)
龍仁地域の陰宅風水に関する考察	崔元碩	2001	タンホ文化研究 6
裨補の概念と原理	崔元碩	2001	民俗文化研究 34
嶺南地方の裨補の起源と拡散に関する一考察	崔元碩	2001	韓国地域地理学会誌 7 (4)
嶺南地方の裨補寺塔に関する考察	崔元碩	2001	韓国思想史学 17
嶺南地方の裨補造山に関する研究：形態と機能を中心として	崔元碩	2001	歴史民俗学 12
嶺南地方の裨補邑樹に関する研究	崔元碩	2001	文化歴史地理 13 (2)
八公山東鶴寺の風水と伽藍配置の特徴	成東煥	2001	韓国地域地理学会誌 7 (4)
顕隆園の遷園と華城建設を通じて見た正祖の風水地理観	成東煥	2001	韓国思想史学 17
風水地理研究パラダイムの転換に対する一考	宋成大	2002	耽羅文化 22
楊平の集落風水に関する考察	崔元碩	2002	応用地理 23
韓国の裨補風水論	崔元碩	2002	大韓地理学会誌 37 (2)
沢里志の風水地理学的研究	オ・セチャン	2003	社会科学研究 11 (1)
安東の風水景観の研究－陰宅の明堂を中心に	オク・ハンソク	2003	大韓地理学会誌 38 (1)
北漢江流域における景観風水のための田園住宅の候補地の選定	オク・ハンソク、パク・ウピョン	2003	韓国写真地理学会誌 13
裨補に関する文化地理学的考察－京畿道の集落の裨補景観を中心に	崔元碩	2003	文化歴史地理 15 (1)
裨補風水と民間信仰：錦山の石塔景観を中心に	権善政	2003	国土地理学会誌 37 (4)
日帝時代の景観変化と風水言説	権善政	2003	文化歴史地理 15 (3)
生態中心的環境観としての風水：風水の「同気感應論」の地理学的解釈	権善政	2004	国土地理学会誌 38 (3)
寺刹の立地選定の歴史的傾向と裨補寺刹－俗離山法住寺を中心に	崔元碩	2004	仏教文化研究 4
忠清北道中部地方の風水地理の考察	イエ・キョンヒ	2005	人文科学論集 31
風水論理の中の生態概念と生態技術	成東煥	2005	大東文化研究 50
朝鮮中期の儒家の世界観が反映された家の立地選定と建築的表現	成東煥・	2005	韓国地域地理学会誌 11 (3)
忠清北道清州地域の風水地理と風水地名	チョインチョル・イエ・キョンヒ	2005	清州学術論集 6
Planning the New City Based on the Geomancy : A Case of the Design of the New Multi-functional Administrative City (NMAC)	オクハンソク・ソテヨル	2005	大韓地理学会誌 40 (50)
景観風水の本質と明堂の選定基準：北漢江流域を中心に	オク・ハンソク	2005	文化歴史地理 17 (3)
東アジアの裨補風水論	崔元碩	2005	東アジアの文化と芸術 2
A Study on Korean Pungsu as an Adaptive Strategy (環境適応戦略としての風水地理研究)	オク・ハンソク	2007	大韓地理学会誌 42 (5)
ソウルの気候・地形要素と景観風水による王宮跡の評価	オク・ハンソク	2007	文化歴史地理 19 (1)
朝鮮時代の地方都市の風水的立地分析と景観類型	崔元碩	2007	大韓地理学会誌 42 (4)

高霊地域の思想の特徴と史的展開：風水思想で探る高霊地域の風水地理学的特徴	成東煥	2008	退溪学と儒教文化43
テキストとしての風水景観読解	権善政	2009	文化歴史地理21 (1)
風水地理説の韓半島伝播に対する研究における三つの考慮すべき点	尹弘基	2009	韓国古代史探究2
海岸浸食に対する風水論の四神砂的観点	チャン・チョンファン	2009	文化歴史地理21 (2)
『葬書』の文献的研究	チャン・ソンギュ	2009	中国学論叢27
『黄帝宅経』の文献的研究	チャン・ソンギュ	2009	建築歴史研究18 (6)
『青烏経』の文献的研究	チャン・ソンギュ	2009	建築歴史研究18 (2)
智異山圏の道説と風水言説	崔元碩	2009	南島文化研究18
慶南の風水ー風水で見た慶南地域の朝鮮時代の集落	崔元碩	2009	慶南文化研究30
韓国において展開された風水と仏教の交流	崔元碩	2009	大韓地理学会誌44 (1)
智異山圏域の集落に及ぼした道説風水の様相	崔元碩	2010	南島文化研究20
朝鮮後期嶺南地方の土族村の風水言説	崔元碩	2010	韓国地域地理学会誌16 (3)
『挾里志』に関する風水的解釈	崔元碩	2010	韓文化研究3
風水地名と場所の意味：忠南錦山郡を対象として	権善政	2010	文化歴史地理22 (1)
『狐首経』の文献的研究	チャン・ソンギュ	2010	建築歴史研究19 (1)
風水書『地理人子須知』の山図の地形表現研究	イヒョンユン・成東煥	2010	韓国地域地理学会誌16 (1)
昭寧園山図の地形表現の研究：淑嬪崔氏「墓所図形與山論」の分析を中心に	イヒョンユン・成東煥	2010	文化歴史地理22 (3)
朝鮮時代の族譜に掲載された山図の特性と地形表現	イヒョンユン・成東煥	2011	韓国地域地理学会誌17 (1)
韓国の伝統地理、風水の再現物としての古地図	権善政	2011	文化歴史地理23 (3)
西洋の風水研究史の検討と展望	崔元碩	2011	文化歴史地理23 (1)
村落風水の文化生態	崔元碩	2011	韓国地域地理学会誌17 (3)
甫吉島の尹善道園林の風水景観と世界遺産的価値	崔元碩	2012	南島文化研究22
風水地名の類型と場所の意味構成ー大田広域市を事例として	権善政	2012	国土地理学会誌46 (4)
地理的特性を盛り込んだ地名と風水の連関性	パク・ソンデ	2012	韓国民族文化45
李退溪の遺跡地に盛り込まれた退溪の風水に対する認識	パク・ソンデ、成東恒	2012	韓国学論集49
学校校歌に盛り込まれる風水的要素の研究：慶州市の小・中・高等学校を対象として	パク・ソンデ、成東恒	2012	人文社会科学研究論叢34
伝統村落の裨補林の風水的意味に関する研究：慶尚南道固城郡の村の林を中心に	ユン・ジェイル、成東恒	2012	人文社会科学研究13 (2)
朝鮮後期の住居観と理想的住居環境の論議ー健康長寿都市の韓国的原型探究のための文献考察	崔元碩	2012	国土研究73
風水地理の現代的再解釈	オク・ハンソク、チョン・テクトン	2013	大韓地理学会誌48 (6)
「井戸を掘れなくする民俗」について	尹弘基	2013	文化歴史地理25 (1)
昌寧成氏族譜の山図製作と地理認識に関する研究	イ・ヒョンユン	2013	韓国古地図研究5 (1)
文化遺産観光のストーリーテリングへの風水適用方案の研究	パク・ソンデ、ペク・チュクオン	2013	韓国学論集51
慶州崔富者家門の陽宅を通じて見た風水認識に関する研究	パク・ソンデ、ヤン・サミョルほか	2013	韓国民族文化47
風水の現代的解釈を通じた韓国型緑色都市の造成方案	パク・ソンデ	2014	韓国地域地理学会誌20 (1)
儒学と風水ー朝鮮時代の風水論の展開過程を中心に	崔元碩	2014	南冥学研究論集19
風水四神砂の地形発達史的解釈	朴秀鎮、崔元碩、李道元	2014	文化歴史地理26 (3)
アレゴリー（寓意）の地形学ー朝鮮時代の風水喝形論の探索	呉尚学	2015	文化歴史地理27 (2)

ける風水説話研究など、風水に関する学術研究の基礎が形作られた。これは、当時韓国学あるいは「民族文化」研究が活発に行われた時期であったことも関係するものと思われる。

このように本格的に学術的な研究が行われるようになった反面、風水地理思想は、墓の立地と吉凶禍福を関連付ける点などが「迷信」とされ、このような学術的研究さえ批判されることも多かった。その論旨はさまざまであったが、例えば1994年に「特集—韓国の風水地理説」を組んだ『韓国史市民講座』をみると、複数の論者が、風水地理思想が「科学的学術研究の対象に値するのか」という点や、風水研究者による、現代の重要な施設の立地論議への風水的な助言などの社会提言を問題とし批判した。例えば「……ただ自信を持って言えることは、韓国の風水地理説の長い歴史を見ると、迷信的要

素があまりに深くこれとつながっており、科学としての位置を占めるには一定の限界があらわれるだろうという点である」（李基白、1994）との見解を見ると、背景に迷信的な部分のある風水地理思想を社会的に称揚し再評価することへの強い懸念がうかがえる。このような見解は、おそらくは「学術研究をする研究者が迷信と評価される風水術を行ってしまう」ことへの危惧からのものであると思われるが、研究すること自体を批判することには違和感が残る。

Ⅲ 1990年代以降の地理学を中心とした風水研究の動向

（1）地理学における風水研究の動向

上述のような批判にもかかわらず、韓国における風水地理思想に関する研究は、現在に至るまで全体としては増加傾向にあり、2000年代以降特に増加していることが理解できる（図2参照）。これらの研究の主な特性を、地理学を軸としながら整理するならば、おおよそ次のような特性が挙げられるであろう。

前述の表1を概観すると、おおよそ1995年

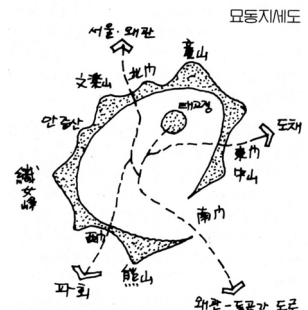
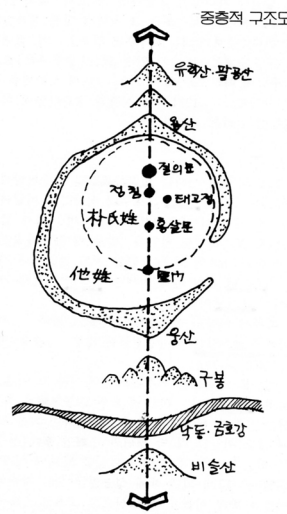
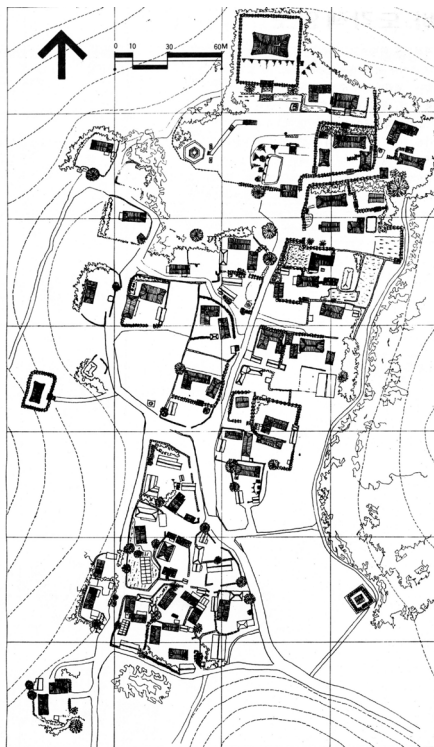


図3 「伝統集落」研究の事例：連続平面図（左）に加え、「重層的構造図」（中）、村周辺の地勢図（右）が示される。村の地勢の描き方は風水図のものと類似している。（蔚山工大建築学科『妙洞』、1987）

前後までは、地理学における研究においても、風水とはそもそも何なのかについての追究が行われていた。

そのような中で、上述の崔昌祚が韓国の風水そのものを追究したのに対し、風水の起源を中国の黄土高原と論じるなど、韓国の外側からの視点を持つ尹弘基も、かなり早い時期より積極的に研究を行い、風水と「大東輿地図」の関連、風水と韓国の仏教との関連など重要な視点を提供した。この2名の研究者は、韓国の地理学における風水研究第一世代のツー・トップであったと言える。

その後、地理学においては、歴史地理学・文化地理学の研究者を中心としてコンスタントに研究が重ねられた。当初は風水地理思想の集落立地や景観への影響が主たるテーマであったが、次第にこれに加え、古地図（風水図含む）や邑誌などの地誌書との関連や、歴史地理学的な視角を持ったより詳細な研究など、そのテーマは多様化した。

中でも欠点のある風水的環境を改善する「裨補」論の追究（崔元碩など）や朝鮮時代の支配層による「風水言説」の利用に関する研究（権善政など）は一つの転換点であったかもしれない。

前者の「裨補」論は、気の集まる良い場所を探しだそうとする風水の論理の中で、問題のある環境を「直す」発想があることを論じ、風水地理思想の新たな側面に焦点を当てた。

また後者は朝鮮王朝期の社会相の中で、支配層が自身の根拠地の村々の風水による環境認識を、ある種の言説（風水言説）として用いた点について論じた。これはそれまでに地理学分野で行われてきた「超歴史的研究」（崔元碩、2007）とは一線を画している。すなわち、風水の理論や方法、そして用いられ方はずっと同じではなく、時代によって変化していることが研究の前提となったということである。このよ

うな点については、歴史学者のチャン・ジョン（2015）の研究を見ても朝鮮半島における高麗時代の風水と朝鮮時代の風水にはかなりの差異が認められることから理解される。また地理教育の面では、1990年前後に高校の地理教科書に、風水が「伝統的地理思想」として掲載されたことも重要であるだろう。

崔元碩（2015）の指摘によれば、上述の崔昌祚の業績の中で、それ以前には陰宅（墓の風水）中心であった風水地理思想のイメージを陽宅（生きている人々のための風水）へ転換したことを重要なものの一つとして挙げている。これは地理学者が、本来集落立地や人間と自然環境との関係に関心があるということもあるだろうが、前述の崔昌祚『韓国の風水思想』の章構成を見てもほぼ全てが「陽基・陽宅」である。

現在韓国における風水研究の中では、地形立地を見る風水を「伝統的知識」あるいは「環境知識」として評価しようとする新たな動きもあるが、これはこの「地理学者による風水の陽宅化」がなければ困難であったかもしれない。例えば歴史学（山訟研究等）、人類学（同族組織研究）などは一般的に陰宅への意識が強いように思う。

また一時期韓国の風水研究においては、1997年頃に崔昌祚が提唱した「自生風水」に関する論争があった。これは中国から流入した風水の体系（道説風水）とは異なる、土地や自然に関する観念（自生風水）が存在したというものである。東アジア全体の地域性や、中国における風水の変化についての視点があれば解決する問題であるように思うが、この時期には風水地理思想を前述の韓国学や民族文化としての位置づけが問われるような背景が存在したのではないかと考えられる。

（2）その他分野の研究動向との関連性

人間と自然環境の関わりについては、韓国の

造景学分野からの研究が重要と思われる。金学範・張東洙『村の林』（1994）などにおいて、現代韓国農村において風水の論理も用いながら複合的な意味付けがなされながら保全される「マウルスプ（村の林）」の評価が行われたが、これも風水地理思想を自然環境や持続可能性と関連付けてみようとする契機になったものと考ええる。これを受けて造景学だけではなく、地理学をはじめとした他分野にも影響を及ぼした。

ただし、早い時期より風水と自然環境を結び付けて論じようとする視点はあり、前述の風水研究批判の際にも、他方で「・・・現在韓国の

風水地理説は、人間と自然環境の望ましい関係を認識する方法として、その重要性を認識する傾向がある。事実自然環境に対する関心の高潮は、風水地理説が流行した大きな要因の一つであると言える。」（李基東、1994）のように認識されていた。

また2000年代以降、分野間の研究交流が行われる例もあり、学術界全体での研究の進展が図られた。例えば、漢陽大学校建築学部の主催で2006～2013年に1年1～2回の「風水大討論会」が行われた。報告書の序文によると風水地理思想研究を、建築学を中心とした「制度圏」の教育等にかに取り入れるかについての一助にすべく行われた。表2は毎回のテーマであるが、風水の対象である王宮（陽宅）、王陵（陰宅）にはじまり、陰宅風水の基本思想である同気感應論やツールとしての羅経（風水用コンパス）まで広く論じられている。

一方で、2000年代以降新たな分野での風水研究も始まっている。例えば不動産学の分野では、現代の不動産の風水による評価や、その不動産価格との関連性などを追究するものが多く、2010年代に入り、このような分野でも博士学位論文が発表されつつある。

表2 漢陽大学校工科大学建築学部
『風水大討論会統合論文集1・Ⅱ』の研究テーマ

回	開催年	テーマ
1	2008	景福宮跡に対する再解釈
2	2008	健元陵風水の虚と実
3	2009	室内風水
4	2009	道詵国師の風水思想
5	2010	中国風水の再照明
6	2010	韓国の十勝之地
7	2011	韓国の三宝寺院の風水
8	2011	韓国の儒教文化と風水
9	2012	風水地理と同気感應論
10	2012	形勢風水と理気風水
11	2013	風水地理と羅経
12	2014	風水地理と明堂

表3 漢陽大建築学部「風水大討論会」第1回テーマと発表者

発表タイトル	発表者	所属	職位
<テーマ：景福宮跡に対する再解釈>			
1. 非文字資料で見た景福宮	ハン・ドンス他	漢陽大	教授
2. 景福宮跡の風水地理	朴時翼	明堂建築士事務所 漢城大	代表 兼任教授
3. 景福宮造営の風水地理思想に関する考察	キム・ファンヨン	ソウルサイバー大 社団法人大韓風水学会	教授 理事長
4. 景福宮風水の争点	キム・ギドク	建国大	教授
5. 風水地理学的に見たソウルの景福宮	キム・スハン	韓億風水地理協会	会長
6. 形気論的観点で見た景福宮	チェ・ヨンシク	韓国風水地理研究所	研究委員
7. 景福宮に対する再解釈及び陽宅明堂	チョン・ハンス	韓国風水地理研究院	院長

IV おわりに：活発な風水研究の背景

ここまで述べたように、韓国の風水研究において、地理学は先導的な役割を果たし、特に研究対象を「陽宅」中心にすることで、恐らくは風水研究が「環境研究」への方向性を得る一助となったものと思われる。また前述の崔昌祚のように風水を「韓国学」として評価する役割も地理学が中心になったのではないかと推察される。

また、地理学を含む、韓国におけるこのような活発な風水研究の背景には、1980年代から始まる「韓国学」や「民族文化」の再評価、また1990年代には台頭してきていた環境への関心が、「韓国の環境知識」としての風水の評価などにつながったものと推測される。ただし、そもそも、様々な伝統的な景観や事物に風水が入り込んでいる点もその背景となったであろう。

前述の地理学者尹弘基（2001）は、今後の韓国の風水研究の課題として、①東アジアレベルの比較研究、②現代韓国風水の実情研究、③環境思想としての研究を挙げた。このうち②、③については実現しつつあるように思われ、現在次第に①への関心が研究課題として注目されはじめ、今後も研究実績はコンスタントに蓄積されるものと思われる。また前述の地理学者、崔元碩は、『人間の山 山の人文学』（2014）を著したが、これは風水研究を背景にしつつも、広く人間と山の関係性を論じた書であり、風水研究だけにとどまらない展開を見せているとも言える。

なお、最後に、どうしても触れておかなければいけないのは、いわゆる「在野研究」の存在である。これは必ずしも「学術的」ではない風水研究を指すものと思われる。現代の韓国においては、墓の選定など職業的に風水と関わる人々による出版物は非常に多い。表3は前述の「風水大討論会」第1回の内容を示したものであるが、肩書から推測するに、そのような発表

者も多いようである。

ここまで述べたような「学術的」風水研究をしようとする場合、バランスの難しさが存在している。日本などよりはるかに、研究者が「科学的ではない」という論者との間に板挟みになりやすい困難さのある研究環境であるように思われる。他方で、以前筆者が風水研究のうち不動産・都市研究分野の動向を論じた際には、そもそも風水知識のある韓国の一般の人々は減っているかようにも思われ（澁谷、2018）、このことが墓の選定など風水と関わる職業に影響を及ぼすとしたら、今後の展開は不透明である。

参考文献

- 尹弘基「韓国風水地理研究の回顧と展望」（韓文）、2001、韓国思想史学、17、pp.11-61
- 金学範・張東洙『村の林』（韓文）、1994、悦話堂
- 崔元碩『韓国の風水と裨補 嶺南地方の裨補景観の様相と特性』（韓文）、2004、民俗苑
- 崔元碩「韓国風水地理研究の回顧と展望—地理学分野の国内学術誌論文を中心に」（韓文）、2015、『韓国風水研究の回顧と東アジアの展望』（2015地理学大会—風水特別セッション資料集）、pp.1-18
- 崔元碩『人間の山 山の人文学』（韓文）、2014、ハンギル社
- 崔昌祚（三浦國雄監訳・金在浩・渋谷鎮明訳）『韓国の風水思想』、1997、人文書院
- 渋谷鎮明「日本風水研究の回顧と展望：異文化理解としての風水研究」（韓文）、2015、『韓国風水研究の回顧と東アジア的展望』（2015地理学大会—風水特別セッション資料集）、pp.109-132
- 澁谷鎮明「現代韓国における風水地理思想の学術的評価—不動産・都市研究分野を中心に—」、2018、貿易風13、pp.56-67
- チャン・ジョン『高麗・朝鮮の国土風水論と政治理念』（韓文）、2015、新旧文化社
- 李基東「現代韓国社会と風水地理説」（韓文）、1994、『韓国史市民講座』、第14集、pp.123-134
- 李基白「韓国の風水地理説の起源」（韓文）、1994、『韓国史市民講座』、第14集、pp.1-17
- 李丙燾『改訂版 高麗時代の研究』（韓文）、1980、亜細亜文化社

*表1に掲載されたものは除く。